

平成30年度 学校評価報告書

1 学校教育目標

自立して自分の将来の夢や目標に挑戦しつづける生徒の育成
～ひとの優しさ、温かさを実感できる学校～

2 今年度の学校重点目標

- ・道徳・人権教育の充実
- ・生徒指導の充実
- ・学習指導の充実
- ・生徒会活動の充実

3 総合的な自己評価

学校評価アンケートや家庭生活状況調査等の分析により、学校としての課題に対し、具体的な取組を行ってきており成果が出てきている。ただ、その取り組みが十分保護者に伝わり切れていない面もある。今後もより丁寧な情報発信を行いながら、次年度に生かしていきたい。

4 総合的な学校関係者評価

保護者・生徒からの意見やアンケートの集計結果などに基づき、学校の在り方を検討されていると思う。課題も多いと思いますが、学校だけで取り組むには限界もあります。地域の力も活用しながら取り組んでいただきたい。

5 評価結果

自己評価		学校関係者評価		
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	
教育課程 学習指導	生徒が主体となって授業に参加する授業形態の研究と実践	・コミュニケーション能力向上のため、毎時間の授業でペアワーク、グループワークを実施した(英語科)が、他教科での実践は少ない。	・協同学習等の授業法の研究・研修を行っていく。 ・授業公開による教科を越えた実践交流を進めていく。	・来年度には、普通教室に大型テレビが配置されたり、タブレットパソコンが導入されることなので、有効活用をしてもらいたい。しかしながら、ICTを使っていることで満足することなく読み書き、話すという基本的な力をつけることを大切にした教育を進めてもらいたい。
	視聴覚教材や教育機器などの教材教具の活用	・電子黒板、グループでのタブレットを用いた授業など、ICT機器を利用した授業の工夫が見られた。 ・ICT機器を活用している教師に偏りが見られる。 ・ICT機器が十分でないため、使いたいときに使えない状況があった。	・ICT機器の機能や活用事例に関する研修会を実施する ・視聴覚機器の保守管理の徹底とデジタル教科書などのソフト面の計画的な整備を図る。	
生徒指導	保護者と連携協力した基本的な生活習慣を身に付ける取組	・生活状況調査を年間4回実施することができ、学校評価アンケートの結果から生活習慣、学習習慣の改善を行うことができた。	・生活状況調査の結果を家庭と情報共有しながら、基本的な生活習慣の定着を推進する。	・生活状況調査により、確実に生活習慣や学習習慣に改善が見られるのは評価できる。今後も継続していただきたい。 ・いじめは未然防止も当然ながら、早期発見・早期対応が大切だと思います。情報がスムーズに伝わる風通しの良い組織づくりをお願いしたい。 ・長欠生徒の対応に苦慮されているが、学校だけの取組では無理だと思います。関係機関との連携が必要だと思います。
	いじめのない安心安全な学習環境をつくる取組	・学期1回はいじめアンケートの実施と年間2回の教育相談の実施により、いじめの早期発見、早期対応することができた。 ・週1回の生徒指導委員会の開催により、情報の共有を行い、全教職員への共有化のため、委員会で話し合われたことを回覧することができた。	・組織的ないじめへの対応を行っていくため、報告・連絡・相談の体制を徹底すると同時に、教職員間の相談がしやすい体制を整えていく。 ・日常的な生徒理解の方法(個人ノート、連絡帳等)を活用し、常に子供たちの変化をつかむようにする。	
研修(資質向上の取組)	校内における研修の実施体制の整備	・道徳の授業研修、授業力向上のための研修を実施することができた。 ・授業公開週間を設定し、互いの授業を見合う中で授業力の向上を図ったが、授業を見に行く教師の数が不十分である。	・授業公開のポイントをしぼった、提案授業を企画する。 ・授業公開、見学に対する教師自身の意識改革を行っていく。	・授業改善の取り組み姿勢は評価できるが、授業参観者が少ないことは今後の課題としてほしい。 ・小中の先生方が一緒に研修をされることはとてもいいことだと思います。
	校種間の交流による研修体制の確立と推進の取組	・小学6年生に対する、中学授業体験を実施した。 ・小中双方向の交流に基づいた研修体制に課題がある。	・小中合同の研修会を計画していく。 ・交流できる教科を計画的に増やしていく。	
保護者、地域住民との連携	学校開放、学校に関する様々な情報の提供の取組	・学校だより、学年学級通信、ホームページによる情報発信を行った。保護者の肯定的意見は、88.3% ・オープンスクールを年2回実施することができた。	・引き続き情報の発信に努めていくと同時に、ホームページの存在等、情報発信の手段の啓発を行っていく。	・学校だより、ホームページでの情報発信に対する肯定的意見が高いことは評価できます。保護者の知りたい情報がタイムリーに発信できているかという事も点検する必要があると思う。 ・地域との交流を積極的に行われていることは大変評価できる。その一方で、生徒の皆さんや教職員の負担にならないよう、計画的・組織的な取り組みが大切です。
	学校運営へのPTA・地域住民の参画及び協力を推進する取組	・図書ボランティア、緑化ボランティアに加えて、学習支援、ベルマーク回収のボランティアの協力を得ることができた。 ・生徒会が中心となって、夏祭りへの出店、スポーツ行事への参加など地域交流活動を積極的に行うことができた。しかし、生徒会担当者の負担が大きくなった。	・学校支援ボランティアのコーディネーターとの連携をふかめ、学校のニーズに対するボランティアの積極的な活用を今後も図っていく。 ・生徒会を中心とした地域交流から学校全体としての取組に移行していく。	
学力向上指導改善プラン	基礎学力の定着、向上に向けての取組	・少人数授業の実施により、きめ細やかな学習指導を行った。 ・テスト前、長期休業中の学習相談を実施できた。 ・学習支援ボランティア、ひょうごがんばりタイム事業を活用した放課後自学教室を週3回実施できた。	・引き続き新学習による少人数授業を行い、個に応じた教育の徹底を行っていく。 ・学習支援ボランティア、ひょうごがんばりタイム事業を活用した学習支援をさらに充実を図っていく。	・新学習システムによる少人数授業など、きめ細かな取り組みがされていると思う。日常的な学習支援の方法として、「ひょうごがんばりタイム」や「学習支援ボランティア」の活用を今後も継続してもらいたい。 ・読書活動と読解力の向上とは別次元でとらえていく必要があると思います。読解力を身に付けるための各教科での計画的な指導計画が必要だと思います。当然、読書習慣の定着の取組も引き続き必要だと思います。
	基本的な学習習慣の確立に向けての取組	・年間4回の家庭生活状況調査を実施し、家庭での学習習慣の定着に努めた。 ・家庭学習プリントの配布により、家庭での学習習慣の定着を図った。(3年)しかし、活用率が33%であった。	・家庭生活状況調査の結果の活用を進めながら、学習習慣の定着をさらに進めていく。 ・家庭学習プリントの内容の見直しと活用方法の周知を図っていく。	

6 学校自己評価の実施状況について

時期	内容
10月	前期学校評価アンケート(生徒・保護者)実施
1月	後期学校評価アンケート(生徒・保護者)実施

7 学校関係者評価委員会の活動について

時期	内容
4月11日	入学式への出席
7月9日	第1回学校評議員会
9月16日	体育大会の参観
10月19日	第2回学校評議員会、授業参観(道徳・教科)
11月3日	文化祭の参観
2月22日	第3回学校評議員会

※学校自己評価…外部(児童生徒・保護者・地域等)アンケートの実施を含む

8 学校評価の公表について

時期	手段	内容	添付
5月	校長だより・ホームページ	学校評価項目・学力向上プランの公表	○
1月	校長だより・ホームページ	前期学校評価アンケートの結果公表	○
2月	校長だより	後期学校評価アンケートの結果公表	○